



遂におらっちゃんの里山里海通信創刊!

皆さんこんにちは、NPO 法人能登半島おらっちゃんの里山里海理事長の北風八紘と申します。珠洲で長年農業を営んでおります。2008年から金沢大学と地域の里山里海を取り組む組織として、このNPO法人を立ち上げました。NPOおらっちゃんと愛称でよばれています。皆さんもぜひそのようによんでいただければ幸いです。おらっちゃんの活動を多くの皆さんと共有したく、今回この里山里海通信を発刊しました。

能登の里山里海を、みんなの力で守り、伝えていく活動をこれからも継続していきたいと考えています。そして、「おらっちゃん」の意味通り、誰かの活動ではなく、皆さんにも能登の里山里海を守る活動に参加していただければ幸いです。



地球環境基金採択事業

世界農業遺産「能登の里山里海」で生物多様性保全のための市民アクション

NPOおらっちゃんは、平成24年度、地球環境基金のご支援をいただき活動することとなりました。事業名は、「世界農業遺産「能登の里山里海」



で生物多様性保全のための市民アクション」です。これまでもNPOおらっちゃんでは、能登の里山里海を保全するための活動を行ってきましたが、「能登の里山里海」が世界農業遺産に認定されたことを機に、市民による能登の里山里海保全の取り組みを広げていくため様々な事業を展開することとなりました。

これまでの反省として、地域の若い方の参加が少なかつたことがあげられます。能登の里山里海を次の世代に引き継いでいくための重要なメンバーとして、20代から40

代の比較的若い世代の参加を促す活動を増やしていこうということになりました。

そこで、今年度は、これまでの保全活動に加えて、里山里海の知識や技術を学ぶワークショップを開催しています。「里海を知ろう」では、蛸島漁港におじゃまして、水揚げされたたくさんのお魚の見学と魚さばき体験をしました。このように、楽しく能登の里山里海を学ぶ機会を設けて、若い世代の皆さんの参加を増やしていきたいと思えます。

もちろん、生物多様性の調査も実施しています。今回は、アサギマダラの調査、保全エリアで見られる里山の植物の調査、外来種であるオオキンケイギクの調査、そして新たに発見された希少水生植物のニシノカワモズクの話をご紹介したいと思います。

この里山里海通信を通じて、今後も能登の里山里海を守る活動を、皆さんに楽しくご紹介していきたいと思えます。どうぞよろしくお願いいたします。

ビオトープ田んぼ
おらっちゃんの
いきもの米
販売中!!
コシヒカリ米

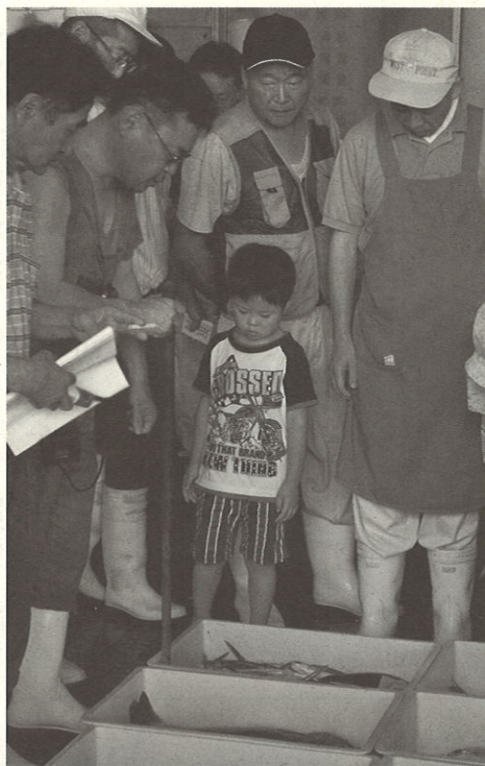


1キ01000円
売上は里山保全に使われます。

＜お問い合わせ＞
おらっちゃん事務局
TEL 0768-88-2528

地元住民が蛸島漁港で競りを見学

里山里海を知るワークショップ開催



競りの様子。

もう、素人には何を言っているのかわかりません。ものすごくスピーディーに魚が取引されてゆきます。

今年度から、NPO法人能登半島おらっちゃんの里山里海では若い世代の方々と、能登の里山里海を学ぶワークショップを開催しています。7月26日には、珠洲市の蛸島漁港にて、能登の里海を学ぶと題して、市場で見られる様々な魚の見学や、お魚の捌き体験を行いました。今回は、参加者の方に記事を書いていただきましたので、当日の大変盛り上がった様子をご覧ください。

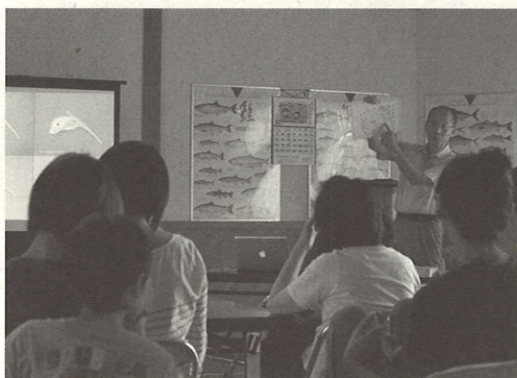
(以下参加者の感想)

先日、「能登の里海を学ぶ」ということで、おらっちゃんの企画に参加してきました。珠洲の蛸島漁港に揚げられる魚

の競りを見学して、レクチャー後に包丁研ぎと魚さばきを習いました。意外に蛸島漁港の競りは時間が遅く、この日は朝の8時半過ぎに見れました。蛸島漁港には沢山の獲れたての魚が並んでいます。



会場を変えてお魚マイスターの前野さんからレクチャー。



魚に関してのレクチャーでは、珠洲で獲れる魚の話が聞きました。普段スーパーで見える魚くらいしか、自分には知識がありませんでした。名前が同じでもさらに種類があったり、流通しなくても特定の地域のみで食べられていたりする魚など、非常に興味深いお話でした。レクチャー後は実践です。包丁の正しい研ぎ方と魚の捌き方をプロから伝授。魚を無駄にしないように正しい捌き方は必要

な知識です。新鮮生ダコとノドグロの刺身。芋だこ、カワハギやアジの刺身など最後はみんな調理した魚をいただくことに。

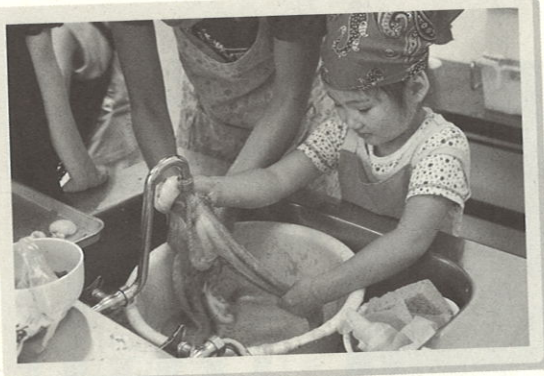
里山里海と言いながらも、里山に主にフォーカスされている感があったような気がしてたのですが、里海に暮らす人々の海と魚に関する知識には本当に関心しました。流通していない美味しい魚の話などは興味深く、私達が普段目にする魚はほんの僅かな種でしかないのだと改めて感じました。

自然農、オーガニック等、普段人の目に触れやすい「土」にフォーカスされている食の安全や環境保全ですが、「海」もまた貴重な資源であり、後世に引き継いで行かなくてはならない、身近にある大切な環境であることを気づかせてもらいました。

お魚マイスター
前野 美柳次さん



お魚マイスター前野さんからお魚の正しい捌き方を伝授!



タコを洗うのがすく上手



最後はみんなで美味しく頂きました

見て触って 里海の恵を再確認

里山里海を知るワークショップ、今回は、珠洲の里海を
 するワークショップでしたが、たくさん親子に参加して
 いただきました。講師の前野さん、ご指導いただき本当に
 ありがとうございます。魚を捌くといった昔は当たり前
 にやっていた日々の作業が、今ではあまりされなくなっ
 ています。それとともに、もしかしたら命をいただくあ
 りがたさというものも、少しずつ薄れてきてしまっている
 のではないかと、そういう危惧も少しあります。美味しく
 いただくための準備であるにも関わらず、魚を捌くのは気持
 ち悪い、気味が悪いという気持ちを持ってしまっている
 に思います。これからも里山里海の恵み、命を美味しく
 いただくこと、その技術を学ぶ企画を続けていければと思
 います。みなさんどうぞご参加下さい。



里山里海保全林 クチナシグサの花

荒廃した里山の復活

再び芽吹く命

希少な里山の植物が
たくさん見られます。

保全林の植物調査

NPOおらっちゃんの里山里海が、2007年より管理している、アカマツ林があります。私たちはそこを保全林とよんでいます。

2007年に整備を始める前は、30年以上放置され荒廃した状態でした。荒廃した状態とは、アカマツ以外のコナラや、タブノキなど広葉樹、ヒサカキやネジキ、ヤマウルシなどの低木、サルトリイバラやフジなどツル植物が繁茂して、人が中に入れないほどでした。しかし、里山里海メイトの皆さんのご協力で、3ヘクタールある敷地の、2ヘクタール程が整備され、美しい里山が再生しました。

今年度から、保全林に見られる植物のリスト作りを行っています。植物の分類に詳しい地元メイトの方と、NPOおらっちゃんのスタッフ、5、6、9月の3回調査実施したところ、すくなくとも174種の植物が確認されました。

中には大変希少な植物も見られま

した。例えば、写真のクチナシグサは、石川県の絶滅危惧Ⅰ類に指定されています。また、下の写真のササバギンラン（絶滅危惧Ⅱ類）、カキラン、コケイラン（準絶滅危惧種）など、里山の希少植物が見られました。その他にも、ノハナシヨウブ、苦い薬草のセンブリなども増えてきています。これらの植物は、外から入ってきたものではなく、元々この保全林に種があったものと考えられます。それが生活しにくい環境に



ササバギンラン

なつてからは、種が長い間地中で眠っており、再び生活しやすい環境になったため、徐々に数が増えてきたものと考えられます。

また、春にはコシアブラやタラノキなど山菜になる植物も増えてきました。コシアブラは増産目的で石川県の試験場も注目しています。また、ヒサカキは神棚に飾る植物として、販売することも可能です。夏にはの秋になればクリ、アケビ、ナツハゼなど様々な木の実もなります。もちろん、この保全林では、アマタケ、ヌメリササタケ、モミタケ、ホウキタケなど、美味しいキノコ類も発生しています。

自然の恵みをもたらす美しい里山を、これからも皆さんと一緒に守っていききたいと思います。

希少な淡水のモヅク確認

能登の里山の 生物多様性の高さ証明



ビオトープで発見されたニシノカワモヅク

こちらにも希少種発見のニュースです。今年6月にNPOおらっちゃんのメンバーが、大変珍しい淡水性のモズクの仲間を発見しました。発見されたモズクはニシノカワモズク（螺の川海雲）と言って、オオタニシの殻にくっつくという面白い生態を持つモズクです。ニシノカワモズクは、環境省が定める絶滅危惧Ⅰ類の生物で、これまで兵庫県神戸市の水田と、石川県志賀町のため

池にのみ確認されてきました。今回の発見は日本で3例目という大変重要な発見となりました。

このニシノカワモズクが発見されたのは、耕作放棄地となってしまう棚田で、私たちが2007年から整備を行ってきた、通称小泊ビオトープとよんでいる場所です。毎年無農薬、無化学肥料でお米を作り、その傍らで能登の里山の水生生物が生活できる水辺を作っています。メダカはもちろん、希少なゲンゴロウの仲間や、在来の蓮の花であるヒツジグサ（準絶滅危惧種）、水面に花を咲かせるミスオオバコ（絶滅危惧Ⅱ類）やイヌタヌキモ（準絶滅危惧種）など、希少生物の宝庫となっています。

小泊ビオトープでは、今年もコシヒカリ100kgが収穫されました。お米は、保全活動を続けていくための資金調達のため、販売を予定しています。里山里海メイトの皆さんに、ぜひお買い上げいただければと思います。

また、保全林も小泊ビオトープもいつでも観察することができます。頻繁に観察会も行っておりますので、ぜひ一度珠洲へお越しいただき、能

登の里山里海の生物多様性を実感するツアーに参加していただければと思います。



保全活動によって再生された棚田



市民参加による植物調査会の様子

【お知らせ】

今年もビオトープ田んぼでつくったコシヒカリ収穫できました。里山保全の活動費のため、1キロ1000円で販売いたします。お問い合わせは8ページのおらっちゃん事務局の問い合わせ先まで。



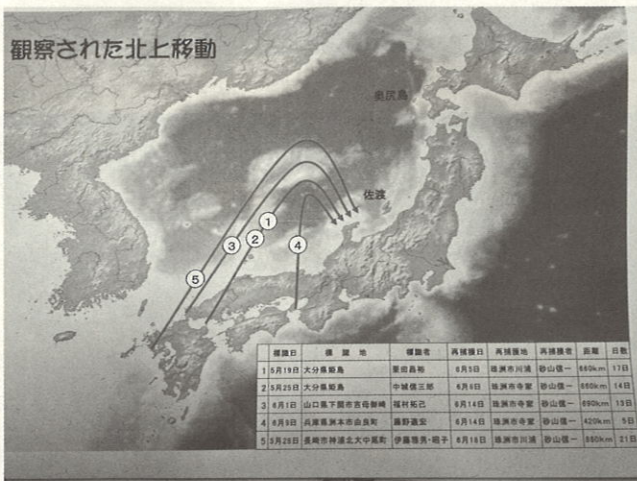
アサギマダラの不思議な旅

今年も千匹を超えるマークを実施
長距離移動も確認

旅する蝶アサギマダラ

みなさん、アサギマダラというチョウの話聞いたことがありますか。アサギマダラは、マダラチョウの仲間で、旅をするチョウとして有名です。春先に沖縄や台湾を飛び立ち、6月ごろに珠洲の海岸に飛来します。このチョウがいったどこからどこへ飛んでいくのか、それを明らかにするため、全国で調査が実施されています。珠洲では、2004年ごろから愛好家の方が調査を行ってきました。2007年からNPOおらっちゃんやが中心となり地域から調査員を募り、調査を実施しています。このチョウは、羽に鱗粉が少ないため、羽に油性ペンで場所と日付を記入し、移動を追いかけます。今年は西部小学校の皆さんをはじめ地元の方が調査を実施してください、1385頭のチョウが観察されました。その中でも大移動が明らかになったのは5頭いました。同じくアサギマダラで有名な大分県の姫島から珠洲市の川浦や寺家まで、660kmの移動が確認されました。最長

は長崎県の神浦から珠洲市の川浦まで21日間で860kmの移動が確認されました。今回の調査で大活躍していただいた里山里海メイトの砂山信一さん(63才)は、「アサギマダラという珍しいチョウが、珠洲へはるばる飛んでくることを知り興味を持つた。調査は大変だったが大移動を確認でき、感動した。今後でもできる限り調査に参加したい。」とおっしゃっていただきました。今後は大分で調査されている方との交流や、金沢からの調査ツアーなども実施できればと考えています。また来年春に、珠洲の海岸で会いましょう！



(図は百万石蝶談会の資料より転載)

外来種オオキンケイギク、アメリカザリガニが珠洲の里山に侵入



珠洲の道治いに群生する特定外来生物オオキンケイギク。

珠洲の里山には日本でも希少になった生物が多数生息しています。しかし、この珠洲でも他の地域と同様、外来種の侵入を許しています。外来種のなかでも在来の生物に深刻な影響を与えるものを侵略的外来種と呼びます。NPOおらっっちゃでは、今年度、侵略的外来種である、オオキンケイギクとアメリカザリガニの調査を行いました。オオキンケイギクは写真にあるように黄色くかわいらしい花です。しかし繁殖力が強く、在来の植物を追い出すほどの勢いで広がるため、特に注意が必要な「特定外来生物」に指定されています。今回の調査で、オオキンケイギクが珠洲市一円に分布していることが判りました。6～8月頃に道治いなどに見られる花です。皆さんも気にかけてみてください。同じく侵略的外来種として有名なのはアメリカザリガニです。珠洲では、若山、野々江の水路やため池に広がっています。これまで石川県の事業で、15000匹以上捕獲しましたが、今年の8月に珠洲市青年団の皆さんと、野々江のカメンタン池で調査したところ、僅か20個の罠から43匹の立派なザリガニが捕獲されました。外来種の根絶はとも難しいということが解ります。今回はザリガニを茹でて食べてみました。なかなか美味しかったですよ。



カメンタン池で採集されたアメリカザリガニ、ポイルしていただきました。

入会のご案内

おらっちゃんの活動に参加しませんか?



NPO おらっちゃでは、活動に参加してくれる方々をいつでも募集中です。是非奥能登の里山里海を私たちの手で守り活用する取り組みに参加してください。会員は正会員・賛助会員の2種類あり、正会員は運営にも携わることができます。賛助会員は活動を支援していただく方々です。能登を元気にする活動にぜひ参加して下さい。

個人正会員 年会費 10,000 円 団体正会員 年会費 30,000 円
 個人賛助会員 年会費1口 1,000 円 団体賛助会員 年会費1口 5,000 円
 稼働をご支援いただく方々からのご寄付も受け付けております。

振込先：ゆうちょ銀行

加入者名 特定非営利活動法人能登半島おらっちゃんの

記号・番号 00710-9-45126

金融機関コード 9900 店番 079

預金種目 当座 店名 ○七九店(ゼロナナキウ店) 口座番号 0045126



NPO おらっちゃ理事長

北風八紘

編集後記

おらっちゃんの里山里海通信、皆様にお届けできて本当にうれしく思っています。2008年から継続している私たちの活動ですが、より多くの方に知っていただきたく、私たちのNPOの広報紙「おらっちゃんの里山里海通信」を創刊しました。世界農業遺産に認定された能登の里山里海を地域住民の手で守っていくための取り組みを、紙面でご紹介しています。希少生物や外来種の調査には地域の方々にご参加いただきました。また地域の若い世代が参加し里山里海を学ぶワークショップを開催しています。次号に詳細お伝えしますが、クヌギの植林事業や命をいただくワークショップの第2弾など、様々な活動を通じて能登の里山里海を皆さんと共有していきたいと思えます。今年度より、地球環境基金からの助成を受けて活動しています。また多くの方のご支援をいただき増した。ありがとうございます。今後ともどうぞよろしく願っています。(赤石)

石川県珠洲市



おらっちゃんのいきもの米

1kg¥1,000

ご注文はこちらまで

TEL:0768-88-2528



NPO 法人おらっちゃんの里山里海事務局

〒927-1462 珠洲市三崎町小泊 33-7 金沢大学能登学舎 1F
 TEL/FAX: 0768-88-2528 Mail: info@satoyama-satoumi.com
 Homepage: <http://www.satoyama-satoumi.com>
 Blog: http://www.satoyama-ac.com/satoyama_blog/kinoko/



地球環境基金

独立行政法人環境再生保全機構地球環境基金の助成を受けて製作しました。